



平和首長会議のための
サントス市行動計画
2016/2017



2016年「HIROSHIMA and PEACE」
夏期プログラムの成果として作成された報告書

筆者

ヘルバルト・S・デ・リマ
パウラ・F・クワリアト

2016年 夏期プログラム参加者
サントス市国際問題調整官

2016年9月

計画概要

本報告書では、当市における平和への新しいアプローチを提示します。「HIROSHIMA and PEACE」プログラムおよび平和首長会議はサントス市に新しい視点、実践活動を重視する視点をもたらしました。本報告書は、サントス市を南米大陸における平和首長会議の照会先にするための共同の取組の結果として生まれたものです。私たちは、平和と核軍縮を支持する行動を取るための力を新たな市民に与える活動を慎重に計画しました。

まず始めに、当市に平和委員会を創設します。この第一歩は非常に重要であり、実現すれば平和のために行動する市民に発言力を、また市議会議員に耳を傾けてもらう場をもたらすでしょう。委員会は、被爆者のメッセージを私たちの世界に広める全く新しい機会になります。

メディアもこの新しい旅立ちにおける重要なパートナーであることから、私たちはメディアの代表者を一堂に集め、平和的メッセージに関する知識を共有する計画を立てています。私たちの計画では教育が大きな役割を担います。市の教育局と連携し、平和に関する協議、イベント、およびワークショップを推進し、平和と非暴力の文化を醸成します。修復的司法という取組もまた、学校で暴力と闘う新たな素晴らしい手法であり、こうした活動も支援していく予定です。

市の年間予定表には、夏期プログラム中に得た知識のすべてを伝達し、共有するための機会がたくさんあります。私たちはそのためにあらゆる機会を利用し、あわせて平和の種を植え、被爆者の証言を再現する予定です。

市内における活動のほかに、核兵器に反対して平和を守るこの行程に参加する首長の数を拡大する計画です。重要なパートナーシップを築くことで、ブラジルおよび南米のより多くの首長に語りかけ、今後 6 カ月間でメンバーの数を大幅に増やす計画です。

これらの行動により、平和および平和首長会議を広めるという目的を達成できるよう願っています。

目 次

サントス市国際関係局からの書簡	4
ヘルバルト・サント・デ・リマ氏からの感謝状	5
1. はじめに	6
a. サントス平和委員会	6
b. 平和構築討論会におけるメディアの役割	7
c. 平和の種と被爆者の証言	8
d. 平和教育への道筋	8
e. 特別イベントへの参加	10
f. サントスの平和地図	11
g. 平和首長会議ネットワークの新規加盟都市の発掘	11

サントス市国際関係局からの書簡

2016年「HIROSHIMA and PEACE」夏期集中講座にサントス市代表として参加したヘルバルト・サント・デ・リマ氏から提供された、国際的な平和首長会議ネットワークの活動の発展性についての情報を検討し、私たちは平和促進を目的とするさまざまな自治体部局代表者の取組に加わりました。

私たちは当ネットワークの目的の重要性を（北朝鮮による近年の無責任な核実験を目の当たりにしている現状では特に）絶えず理解しています。また、地球における核軍縮の緊急な必要性を啓蒙しながら、同時に平和と非暴力の文化のための行動を明確に打ち出す折衷的な解決策のことも知っています。

被爆者の証言をもとに、「その苦しみと闘う」必要性に関して、私たちはネットワークの活動は拡充できる、また拡充しなければならないとの結論に達しました。ブラジルにおける暴力の現実には核攻撃後に日本が苦しんだ現実とはかなり異なると言えます。しかし、人類の苦しみは私たちがどこにしようとも共通しています。

それを踏まえ、私たちの活動の中には、平和首長会議ネットワークの主眼とする活動の範疇を超えたもの、すなわち市教育部門の修復的司法プログラム、市の市民権保護部門とともに行政、民間部門、および市民社会を1つの取組にまとめる平和のための市委員会の創設、市民社会が組織し、サントス市が後援する「ウェーブ・ムーブメント・フォー・ピース」、非政府組織 ABrasOFFA が指揮する「ピース・アット・スクール」、毎年8月9日に核攻撃の犠牲者を市で追悼する「核軍縮の日」の制定、および当国で平和文化を醸成するその他の活動までが含まれています。

私たちは努力と個人の技能を伸ばしつつ、行動範囲も拡大していく意向であり、人類の苦しみを広げる核の脅威、またその他のさまざまな形の暴力が存在しない、平和な世界の推進に引き続き力を注いでいきます。

パウラ・クワリアト
国際関係局
サントス市庁

ヘルバルト・サント・デ・リマ氏からの感謝状

私の人生こそ、私のメッセージである
M・ガンジー

平和首長会議の皆様

素晴らしい体験でした。昨夏に広島で過ごした時間は私の記憶に一生残ることは間違いありません。私は人生を通じて平和のために活動してきましたが、「平和は実現できる。そして平和につながる道などない—平和こそ唯一の道なのだ！」という信念を私と同じくするあれほど多くの人に出会う機会は初めてでした。

平和首長会議が用意してくださったすべての瞬間に本当に感謝します。広島および平和への道筋について最新の学術的知識を提供していただきました。また平和について、これまでの全人生で学んだより多くを 1 週間で学び、洞察に満ちた新しい考え方にしっかり頭も心も開かれ、これが母国ブラジルに戻って平和を広める私のプロジェクトによりよい結果をもたらすのに役立っています。

素晴らしい学生、教授、その他の方々と出会いましたが、皆さんは今この瞬間にも世界を平和な場所にするために行動しています。今後、私のキャリアの中で、平和活動家として、その何人かときっと協力することになるでしょう。仲間の学生たちとは文字通り共に泣き、笑いました。こうした絆は私たちがみんな人間であること、そしてみんなが平和を求めていることを思い出させます。また私のありったけの感謝に値する人物に謝意を捧げたいと思います。サントス市当局のパウラ・クワリアトさん、本当にありがとうございました。今回の日本への旅の最初から、あらゆる段階で力になっていただきました。あなたの努力、またこの夢を叶えてくださったあなたのスタッフ全員に感謝します。サントス市長のパウロ・アレシャンドレ氏に感謝します。あなたは間違いなく私たちを鼓舞する存在です。平和首長会議のスタッフ全員に感謝します。皆さんとても親切にしてくださいました（皆さんを思い出さずだけで涙がこぼれます）。

この人生で目標を達成する以上に、皆さんへの感謝をよりうまく伝える方法はありません。受け取った知識のすべてを大事にします。耳にしたすべてのストーリーを大事にします。日本の人たちが分かち合ってくくださった幸せのすべてを大事にします。被爆者の記憶にある苦悩を大事にします。平和首長会議の招聘を大事にします。この人生で、今後、私の行動をお見せすることでそのすべてを大事にしたいと思います。その第一歩として、執筆したこの報告書を提出いたします。

ありがとうございます。私たち全員に平和がありますように。

ヘルバルト・サント・デ・リマ

1. 活動の紹介

本報告書は下記の活動すべてを実現可能および持続可能なものにするために慎重に作成されました。先月中、ブラジルのすべての市は地方選挙のために非常に多忙でした。この選挙期間はあらゆる行政当局が大混乱になり、選挙以外のテーマを協議する会合を設定するのは困難をきわめます。しかし驚いたことに、私たちはなんとか数多くの興味深い人たちを



写真 1—市代表者との会合

引き込み、過去 30 日間で多くの成果をあげました。その証拠に、サントス市副市長、サントス市教育長官及びその幹部チーム、市の広報局担当者並びに社会開発長官代理に、本報告書記載のすべての活動を認める非常に重要な会合で面会しました。この会合は新しいパートナーシップの構築を可能にした点で、重要な到達点となりました。

活動案は、当市における平和文化の長期的な発展を念頭に立案されました。平和の議論と推進のための場の創設は、私たち全員にとって大きな成果です。活動は下記に挙げる通りであり、各活動には、より深い理解および計画立案のための概要を記載した略表を付記しています。

a. サントス平和委員会

朗報です！ 6 年の歳月と度重なる遅れを経て、サントス市は平和委員会を創設しました。同委員会は毎週会合を開き、サントス市の全市民による民主的参加を促進する活動を通じて暴力を減らすことを重点に、官民および市民社会による自治体活動に影響を及ぼすことができるよう組織されています。委員会は、サントス市が代表の一角を務める平和首長会議ネットワークの支援や、学校内における平和構想を推進する非政府組織 AbrasOFFA のプロジェクト「Paz na Ponta do Giz (チョークの端の平和)」などの市民社会の活動のサポートを行います。委員会はまた原爆犠牲者の追悼式典、平和の日 (Peace Day) の活動などの会合やイベントを支援します。

委員会の主な役割は、「平和」のテーマを市のすべての指導者（市長や市議会議員など公式な立場、または市民の意思決定に影響を与えるリーダーなど非公式のものであるかを問わず）の行動目標の最優先課題に位置づけることです。委員会のアイデアは6年前、かねてからブラジル・サントス市で平和推進の活動に従事し、複数の反暴力活動を展開してきた非営利団体（NGO）—ABrasOFFA（ブラジル民族芸能フェスティバル運営者協会）から出されました。2010年、ABrasOFFAは第1回南北アメリカ平和会議を開催し、参加した複数の学識者のうち、デービッド・アダムズ博士が当市における平和委員会の創設を提案したのです。ABrasOFFAとサントス市庁は、代表としての権限を持ち、より平和的な社会に向けた方策を協議できるグループの形成によって市内で平和推進を強化し、暴力を軽減する機会になると考えました。一定期間、委員会設立に関する協議が行われ、最終的に民主的な手法によりすべての市民社会の代表者を招いて正式に始動することになりました。

次のステップは委員会に知識を提供し、その情報を核軍縮および暴力の縮小に使う権限を与えることです。私たちは委員会とこれらのテーマを協議するための一連のレクチャーとセミナーを企画しています。

活動の種別	知識の共有と権限の委譲
責任者	ヘルバルト・リマ
活動の概要	HIROSHIMA and PEACE プログラム（2016）における学習プロセスの成果として、委員会に平和首長会議に関する知識を提供し、市民を対象に最低3件のレクチャーとセミナーを実施して核軍縮および平和に対する理解を深める。
日程	2016年10月～2017年2月—委員会向けの月例レクチャー、一般に公開。

b. 平和構築討論会におけるメディアの役割

平和に対するメディアの取組を推進する働きかけについて知識を得たことから、私たちはサントス市のジャーナリストおよび広報のプロとの会合を計画しています。本旨は「平和のためのメディア」の構想を示し、平和を促進することができる環境を創出する道筋をこれらの専門家と協議することです。

サントス市はこのイベントを重視しており、実現すれば市における暴力の縮小をサポートし、地域の重要な議論のテーマが生まれるはずで、イベントの実現に向け、私たちは地

元の各団体および平和委員会の参加が重要だと考えています。市庁では広報担当者を派遣してイベントに参加させるとともに、イベントの実現をサポートします。

活動の種別	イベント（公開討論会）
責任者	パウラ・クワリアト（サントス市）／ヘルバルト・リマ（ボランティア）
活動の概要	平和構築におけるメディアの役割、また平和の推進により適した環境の創出を可能にする方法について協議するイベント
日程	未確認

c. 平和の種と被爆者の証言

市の環境局、教育局および地元の日本人会と連携し、私たちは平和首長会議の活動の一環として、市に対して広島に由来する種を植え、被爆者の証言を展示する機会を提案します。すでに2件のイベントが種を受け取るために予定されています。一つ目は2017年の新学年の開始を記念するもので、二つ目は毎年8月にサントスで行われる原爆犠牲者の追悼式典です。主旨は、市民社会と自治体のその他のメンバーが平和と軍縮を推進するために種を利用できるようにすることにもあります。

活動の種別	イベント／レクチャー
責任者	教育長官、環境長官（サントス市）／ヘルバルト・リマ（ボランティア）／地元の日本人会
活動の概要	平和の種を植え、被爆者の証言を展示するイベント
日程	2月（2017年）および8月（2017年）

d. 平和教育への道筋

平和構築の概念を学校に導入するという考えは、平和を推進する上で最も重要な行動計画と思われます。私たちは教育長官と連携して、サントスのすべての公立基礎教育ユニットの専門家向けに60時間の平和教育研修プログラムを実施するため、教育者で構成する平和文化委員会のための教育作業委員会を創設する計画です。

研修の主な目的：

- 共生の新たなあり方および核兵器のリスクについて意識を高めます。
- 学校における集団の関係性および気風を改善します。

- 共通の問題を特定することで、前向きな改革を計画します。
- コミュニケーションネットワークを創出し、「行動」を起こします。
- 子ども達が生き生きとした表情で学校生活を送ることができるようにし、地域の発展に向けて団結、意識、行動に向けた準備に取り組みます。
- 解決手段を査定し、維持し、共に作り上げ、成果を評価することを目的とした平和文化の教育に取り組みます。

これらの目標の達成を目指し、研修は 7 セクションと 2 セクションで構成します。すべてのセクションは下記のすでに確立された、手本になる組織・手法を通じて起案されました。

コーポレーション・アンド・カルチャー・オブ・ピース（協力と平和文化）：共有することを教え、また、学ぶ手法。問題が起こった時には、課題となっている懸案の状況に対して全員の成功につながる、また全体の幸福に資する協力的な解決策を見つける方向に促します。すべての指導者・学習者は他者との出会いを通じて自己と世界を発見するのです。

パラス・アテナ：パラス・アテナは、文化と知識の表出によるアプローチを通じて人間社会を向上させることを目的として、教育、保健衛生、人権、環境、社会促進の分野の仲介を推進し、プログラムおよびプロジェクトを企画します。

ゲーム・オアシス：ゲーム・オアシスは集団の理想を実現するために市民を動員するための 1 つのサポートツールです。

HIROSHIMA and PEACE 夏期プログラム：プログラム期間中に得た知識を活かし、私たちは平和および広島に関する最新の知識を再現することができます。

非暴力的なコミュニケーション：効果的かつ共感力のあるコミュニケーションを主体とするパートナーシップと協力関係の構築をサポートし、共通の価値観に基づいた行動を判断することの大切さを重視します。

修復的司法は価値観に基づく、非懲罰的な枠組みであり、関係当事者—被害者、加害者、そして地域社会—に対する攻撃により生じた損害の修復、さらに可能な場合には壊れた関係の再構築を目指します。

サークル・ダンス：全員が手を携えて仲間をサポートし、補助し、多文化共生主義を推進する際に生まれるグループの団結、コミュニティ精神を促進します。

サイコモトリシティ（心理測定）：身体活動を通じて、また内外の世界との関係性を通じて人間を研究します。

計画では、学校という枠の内外で平和文化を推進することに応じる教育専門家は 300 人に達する予定です。

これらのプロジェクトを申請するため、まず市内でプログラムに資金を拠出してくれる提携先を探します。金融危機によるコストの高騰に直面しているため、市からの拠出は見込めません。この取組に資金提供する民間または市民社会の提携先を探す予定です。

活動の種別	平和教育プロジェクトの資金調達
責任者	ヘルバルト・リマ（ボランティア）
活動の概要	学校における平和推進プロジェクトの資金調達先を探す。
日程	9月以降

e. 特別イベントへの参加

特別イベントへの参加は、HIROSHIMA and PEACE プログラム期間中に得た知識により充実する活動の1つです。既に一連のイベントに対して、ヘルバルト・サント・デ・リマ氏の参加が求められています。本旨は、平和首長会議に関する知識を広め、核軍縮への支持を広げることです。すでに予定されているイベントには、市の学生代表者全員を対象にしたセミナー、ウェーブ・オブ・ピース・デー（市の社会開発長官主催によるイベント）、9月21日の平和の日、8月9日の軍縮の日などがあります。

活動の種別	特別イベントへの参加
責任者	ヘルバルト・リマ（ボランティア）
活動の概要	パネリストとしてイベントに参加または核軍縮への支持の呼びかけ
日程	2016年9月以降

f. サントスの平和地図

サントス市の平和活動すべてを確認した後、私たちは提携関係を構築して平和を支持するすべての行動を目に見える形にするためには、そのすべてを一カ所で報告することが重要だと気づきました。平和は非常に複雑で多岐にわたるテーマであり、市内で多くの異なる主体が推進しています。私たちの目標は、それらすべてを1つの報告にまとめて提示し、平和に向けた活動を紹介する作業部会を創設することです。

活動の種別	平和に関する地図
責任者	平和委員会
活動の概要	市の平和関連プロジェクトおよび活動すべてに関する単一の報告書の作成
日程	2016年9月以降

g. 平和首長会議ネットワークの新規加盟都市の発掘

平和首長会議事務局の目標に合わせて、私たちは南米の新規都市を募るキャンペーンを開始する予定です。より効果的な方法で新規加盟を奨励するため、平和首長会議に関する情報を広めてくれる新たな提携先に期待しています。市内で平和文化に携わっている地元NGOで—ヘルバルトも会員の1人である—ABrasOFFAが当市を代表して責任を負います。同団体が選出されたのは、平和・教育関連のフェスティバルを長く運営していることから、平和文化への取組の長年の経験があり、卓越した評価を受け、多くの南米諸国に連絡先を持っているためです。次の学期までに少なくとも50の新規加盟都市を勧誘するのが目標です。

活動の種別	新規加盟都市の発掘
責任者	ABrasOFFA (NGO) / ヘルバルト・リマ氏
活動の概要	平和首長会議ネットワークに新規加盟都市を参加させる。
日程	2016年10月以降

結びの考察

これらのすべての活動は、当市に大きな影響を与えることを目的とした提携ネットワークを念頭に置いて計画されました。

平和首長会議事務局には、来年中に私たちの進捗状況を確認する機会を持っていただきたいと心から願い、私たちのプロジェクトの主役として参加して下さるようすでに皆様をお誘いしています。今後、他の都市と協力する新たな方法を見つけ、私たちが始動させたこの素晴らしい交流体験を継続していきたいと考えています。

